

NEWS LETTER

14時30分解禁

百貨店を遊ぼう!

平成22年9月 全国百貨店売上高概況

平成22年10月18日

I. 概況

1. 売上高総額	4,463億円余
2. 前年同月比	-5.2% (店舗数調整後/31か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	92社 260店 (平成22年8月対比-3店)
4. 総店舗面積	6,470,118㎡ (前年同月比:-2.3%)
5. 総従業員数	93,190人 (前年同月比:-6.6%)
6. 3か月移動平均値	2-4月 -4.2%、3-5月 -3.1%、4-6月 -4.0%、 5-7月 -3.1%、6-8月 -3.5%、7-9月 -3.1%

[参考] 平成21年9月の売上高増減率は-7.8% (店舗数調整後)

【9月売上の特徴】

31か月連続の前年同月比マイナスとなった。

9月は、中旬まで続いた記録的な残暑の影響を受けて、本来最盛期の秋物衣料など主力商材が苦戦したほか、円高・株安傾向の深刻化や政策効果の息切れ(エコカー補助金の終了等)から、景気の先行き懸念が再度浮上するなど消費マインドを抑制する環境要因も重なり、商況全般としては低調に推移した。集客・販促催事の積極展開など各店の施策や、下旬の冷え込みで月後半から季節商材に動きが出始めるなど、売上を下支えする要素もあったが、最終的には前月(-3.2%)から2ポイント減少幅を広げる結果となった。

具体的な動向としては、前年シルバーウィークの連休が今年は振替休日(一日減)で飛び石となり集客に影響したこと、一部店舗で改装工事による売場面積の縮小が見られたことなどマイナス要素がある一方、地方物産展や店外催事(優待セール等)が活況であったこと、家庭用品や食料品は比較的堅調に推移したこと、急伸基調の外国人売上は依然二桁増(+18.7%/11か月連続プラス)で推移していること、などのプラス要素が報告されている。

【要因】

- (1) 天 候 : 気象庁発表「9月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)
 - ◇ 上旬から中旬にかけて晴れの日が多く、広く猛暑になるなど残暑が厳しかったが、下旬は天気が周期的に変わり、気温が急激に低下して平年を下回る日があった。猛暑日・真夏日の日数が最大値を更新する地区が多かった。
- (2) 営業日数増減 29.7日 (前年同月比-0.1日)
- (3) 土・日・祝日の合計 10日 (〃 祝日1日減)
- (4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
 - ①増加した: 36店、②変化なし: 24店、③減少した: 72店、④不明: 46店
- (5) 9月歳時記(敬老の日、秋分の日/お彼岸)の売上 (同上)
 - ①増加した: 9店、②変化なし: 54店、③減少した: 41店、④不明: 74店
- (6) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)
 - ①増加する: 27店、②変化なし: 74店、③減少する: 25店、④不明: 52店

全国百貨店 売上高速報 2010年09月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	446,329,675	100.0	-5.2 (-6.3)
10都市	290,866,239	65.2	-4.5 (-5.5)
札幌	11,948,922	2.7	-2.3 (-16.1)
仙台	5,933,214	1.3	-10.3
東京	112,756,900	25.3	-3.8
横浜	25,325,845	5.7	-4.7
名古屋	26,108,272	5.8	-5.6 (-8.1)
京都	17,328,875	3.9	-8.4 (-10.2)
大阪	55,935,656	12.5	-3.0
神戸	12,651,887	2.8	-5.2
広島	10,405,592	2.3	-5.2
福岡	12,471,076	2.8	-7.1
10都市以外の地区	155,463,436	34.8	-6.4 (-7.7)
北海道	2,811,972	0.6	-3.8 (-12.3)
東北	8,682,739	1.9	-6.8
関東	75,314,461	16.9	-7.1 (-9.2)
中部	11,796,013	2.6	-6.7 (-8.9)
近畿	14,189,001	3.2	-6.2
中国	10,950,330	2.5	-2.8
四国	7,970,519	1.8	-8.0
九州	23,748,401	5.3	-5.1

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	446,329,675	100.0	-5.2 (-6.3)
紳士服・洋品	25,477,957	5.7	-10.5 (-11.6)
婦人服・洋品	106,912,765	24.0	-8.6 (-10.1)
子供服・洋品	10,218,014	2.3	-5.8 (-6.5)
その他衣料品	12,053,368	2.7	-9.8 (-11.4)
衣 料 品	154,662,104	34.7	-8.9 (-10.2)
身のまわり品	57,270,606	12.8	-7.2 (-8.8)
化粧品	27,023,538	6.1	-3.4 (-4.1)
美術・宝飾・貴金属	21,868,891	4.9	-4.0 (-4.8)
その他雑貨	19,554,902	4.4	-3.2 (-4.6)
雑 貨	68,447,331	15.3	-3.5 (-4.5)
家 具	6,114,311	1.4	-5.8 (-6.1)
家 電	1,474,460	0.3	-14.3 (-14.5)
その他家庭用品	15,673,422	3.5	-0.4 (-1.1)
家 庭 用 品	23,262,193	5.2	-2.9 (-3.4)
生 鮮 食 品	25,861,971	5.8	-2.0 (-2.7)
菓 子	27,782,952	6.2	-4.7 (-5.4)
惣 菜	25,987,787	5.8	-1.0 (-1.5)
その他食料品	33,200,637	7.4	-4.1 (-5.0)
食 料 品	112,833,347	25.3	-3.1 (-3.8)
食 堂 喫 茶	14,177,192	3.2	-0.7 (-1.5)
サ ー ビ ス	5,424,327	1.2	1.9 (1.0)
そ の 他	10,252,575	2.3	21.1 (20.9)
商 品 券	15,540,347	3.5	8.2 (7.5)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|------------------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -4.5% (店舗数調整後／31か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -6.4% (〃 ／39か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-4.5	-2.9	31か月連続マイナス
札幌	-2.3	-0.1	7か月連続マイナス
仙台	-10.3	-0.1	29か月連続マイナス
東京	-3.8	-0.9	31か月連続マイナス
横浜	-4.7	-0.3	4か月連続マイナス
名古屋	-5.6	-0.3	2か月ぶりマイナス
京都	-8.4	-0.3	4か月連続マイナス
大阪	-3.0	-0.4	2か月連続マイナス
神戸	-5.2	-0.1	2か月連続マイナス
広島	-5.2	-0.1	31か月連続マイナス
福岡	-7.1	-0.2	26か月連続マイナス
10都市以外の地区	-6.4	-2.3	39か月連続マイナス
北海道	-3.8	0.0	2か月連続マイナス*
東北	-6.8	-0.1	30か月連続マイナス*
関東	-7.1	-1.2	39か月連続マイナス
中部	-6.7	-0.2	30か月連続マイナス
近畿	-6.2	-0.2	30か月連続マイナス
中国	-2.8	-0.1	28か月連続マイナス*
四国	-8.0	-0.1	39か月連続マイナス
九州	-5.1	-0.3	37か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行したため(2005年までは6大都市)、連続性の観点から2007年1月からのトレンドとした。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、2か月連続で全品目がマイナスとなった。雑貨は先月より改善したが、衣料品、身のまわり品、家庭用品、食料品は落とす結果となった。また、子供服・洋品、その他衣料品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、家具、家電、生鮮食品、惣菜は先月より改善する動きとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-5.2	—	31か月連続マイナス
紳士服・洋品	-10.5	-0.6	30か月連続マイナス
婦人服・洋品	-8.6	-2.1	39か月連続マイナス
子供服・洋品	-5.8	-0.1	25か月連続マイナス
その他衣料品	-9.8	-0.3	31か月連続マイナス
衣料品	-8.9	-3.2	39か月連続マイナス
身のまわり品	-7.2	-0.9	37か月連続マイナス
化粧品	-3.4	-0.2	22か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-4.0	-0.2	43か月連続マイナス*
その他雑貨	-3.2	-0.1	34か月連続マイナス*
雑貨	-3.5	-0.5	31か月連続マイナス
家具	-5.8	-0.1	34か月連続マイナス
家電	-14.3	-0.1	3か月連続マイナス
その他家庭用品	-0.4	0.0	3か月ぶりマイナス
家庭用品	-2.9	-0.1	6か月連続マイナス
生鮮食品	-2.0	-0.1	2か月連続マイナス*
菓子	-4.7	-0.3	2か月連続マイナス*
惣菜	-1.0	-0.1	28か月連続マイナス*
その他食料品	-4.1	-0.3	2か月連続マイナス*
食料品	-3.1	-0.8	2か月連続マイナス
食堂喫茶	-0.7	0.0	26か月連続マイナス
サービス	1.9	0.0	2か月連続プラス
その他	21.1	0.4	6か月連続プラス
商品券	8.2	0.3	11か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

平成22年9月 東京地区百貨店売上高概況

平成22年10月18日

I. 概 況

1. 売上高総額	1,127億円余
2. 前年同月比	-3.8% (31か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-4.7%(88.2%) : 非店頭+3.3%(11.8%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	14社 27店 (平成22年8月対比±0店)
5. 総店舗面積	943,473㎡ (前年同月比:-0.3%)
6. 総従業員数	20,864人 (前年同月比:+1.8%)
7. 3か月移動平均値	2-4月 -5.4%、3-5月 -4.0%、4-6月 -4.1%、 5-7月 -3.0%、6-8月 -3.5%、7-9月 -2.9%

[参考] 平成21年9月の売上高増減率は-10.5% (店舗数調整後)

【9月売上の特徴】

- (1) シルバーウィークの分散化は集客にとってマイナス与件だが、都内では入店客数がほぼ前年並みに推移した。この要因には、地方物産展等の催事強化策、一部店舗における増床・全館改装、有力テナントの新規導入といった取り組みが考えられる。
- (2) 東京地区の非店頭売上が3か月連続で前年比プラスとなった。店外催事(ホテルを会場とした優待セール等)や法人外商の大口受注などで、全体の売上を下支えする構図が見てとれる。
- (3) 秋の旅行シーズンに向けて、都内各店共にトラベルグッズの品揃え強化を図った結果、この分野の売上は概ね前年をクリアした。
- (4) 東京地区の家庭用品売上が堅調(+0.2%)に推移した背景には、最近の家庭回帰志向の高まりに加えて、秋の新生活(転居・転勤・新学期等)需要が重なったことがある。
- (5) 10月中間段階での都内の売上動向は、ようやく主力の秋冬物重衣料にも動きが出始めたことなどから、およそ半数の店舗で前年比プラスとなっている。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 29.7日 (前年同月比-0.3日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
 - ①増加した: 9店、②変化なし: 4店、③減少した: 6店、④不明: 3店
- (3) 9月歳時記(敬老の日、秋分の日/お彼岸)の売上 (同上)
 - ①増加した: 1店、②変化なし: 7店、③減少した: 5店、④不明: 9店
- (4) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)
 - ①増加する: 4店、②変化なし: 13店、③減少する: 2店、④不明: 3店

東京地区百貨店 売上高速報 2010年09月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	112,756,900	100.0	-3.8
紳士服・洋品	7,855,514	7.0	-7.7
婦人服・洋品	24,803,892	22.0	-9.5
子供服・洋品	1,983,903	1.8	-3.9
その他衣料品	2,236,319	2.0	-18.8
衣 料 品	36,879,628	32.7	-9.5
身のまわり品	16,090,943	14.3	-3.6
化粧品	6,584,456	5.8	-3.3
美術・宝飾・貴金属	6,212,989	5.5	-4.4
その他雑貨	5,987,847	5.3	-2.1
雑 貨	18,785,292	16.7	-3.3
家 具	1,971,339	1.7	-4.9
家 電	533,020	0.5	-21.5
その他家庭用品	4,136,879	3.7	6.7
家 庭 用 品	6,641,238	5.9	0.2
生 鮮 食 品	4,143,055	3.7	1.0
菓 子	6,666,863	5.9	-2.9
惣 菜	5,635,022	5.0	-0.5
その他食料品	8,841,625	7.8	-5.8
食 料 品	25,286,565	22.4	-2.8
食 堂 喫 茶	3,265,092	2.9	-0.7
サ ー ビ ス	2,221,437	2.0	21.5
そ の 他	3,586,705	3.2	37.6

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	5,940,429 千円	45.9
従 業 員 数	20,864 人	1.8
店 舗 面 積	943,473 m ²	-0.3

営 業 日 数	29.7 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、家庭用品が2か月ぶりにプラス。マイナスは衣料品、身のまわり品、雑貨、食料品。その他家庭用品が3か月連続のプラスとなり、生鮮食品が2か月ぶりにプラスとなった。また、5品目の身のまわり品と雑貨は先月より改善し、子供服・洋品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、家具、家電、惣菜も改善する動きとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-3.8	—	31か月連続マイナス
紳士服・洋品	-7.7	-0.6	2か月連続マイナス
婦人服・洋品	-9.5	-2.2	26か月連続マイナス
子供服・洋品	-3.9	-0.1	4か月連続マイナス
その他衣料品	-18.8	-0.4	29か月連続マイナス
衣料品	-9.5	-3.3	26か月連続マイナス
身のまわり品	-3.6	-0.5	30か月連続マイナス
化粧品	-3.3	-0.2	22か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-4.4	-0.2	4か月連続マイナス*
その他雑貨	-2.1	-0.1	28か月連続マイナス*
雑貨	-3.3	-0.5	29か月連続マイナス
家具	-4.9	-0.1	4か月連続マイナス
家電	-21.5	-0.1	2か月連続マイナス
その他家庭用品	6.7	0.2	3か月連続プラス
家庭用品	0.2	0.0	2か月ぶりプラス
生鮮食品	1.0	0.0	2か月ぶりプラス*
菓子	-2.9	-0.2	5か月連続マイナス*
惣菜	-0.5	0.0	30か月連続マイナス*
その他食料品	-5.8	-0.5	3か月ぶりマイナス*
食料品	-2.8	-0.6	24か月連続マイナス
食堂喫茶	-0.7	0.0	23か月連続マイナス
サービス	21.5	0.3	6か月連続プラス
その他	37.6	0.8	6か月連続プラス
商品券	45.9	1.6	14か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・佐藤・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>